



年 組 名前

道新で
ワークシート

ごみ量 政令市最少目指す

新スリムシティさっぽろ計画の
目標と基本方針

目標 2016年度比でごみ排出量を6.8万ト以上、
1人1日100%以上減量→政令市で最少に

基本方針

- ①2R(排出抑制、再使用)を重点推進
- ②市民と事業者、行政の連携でごみ減量
- ③誰もが安心してごみ出しできる体制づくり
- ④処理コスト最適化とエネルギー効率化

現計画(08～17年度)では、09年の可燃・不燃ごみの有料化や「雑紙」「枝・葉・草」の分別などを推進した。その結果、08年度に74・8万トあったごみ排出量は16年度に59・1万トへと大幅減。4カ所あった清掃工場のうち篠路清掃工場

市が計画素案 「1人1日100グラム減」

札幌市は、今後10年間のごみ減量やリサイクルの方向性について定めた「新スリムシティさっぽろ計画」(2018～27年度)の素案をまとめた。四つの基本方針を掲げ、全市のごみの排出量を16年度比で6・8万ト以上、市民1人1日あたりで100%以上減らし、政令指定都市で最少を目指す」と明記した。3月に正式な計画としてまとめる。

(小林史明)

(北区)を廃止できた。ただ、16年度に家庭から出た可燃ごみは生ごみが4割を占め、資源物の容器包装、プラスチックと紙類が計2割近く混入。不燃ごみにも無料回収している小型家電と電池が計3割ほど含まれた。事業所のごみも減ったが、近年は約20万トで推移し、減少が止まっている。今後はごみ出しが難しい高齢者が増えるという課題もある。

新計画で掲げられた基本方針は、①リサイクルよりも、ごみ自体を生み出さないリデュース(排出抑制)とリユース(再使用)の「2R」を重点とする②市民と事業者、行政の連携でごみ減量を図る③高齢者をはじめ誰もが安心してごみを出せる体制をつくる④処理コストを抑え、焼却熱発電などエネルギー効率化を図るの4点。

20政令市のうち、1人1日あたりのごみ排出量(15年度)は横浜市が73.5%で最も少なく、札幌市は約100%多い83.7%で4番目。新計画はこれを基に目標を設定し、各方針に沿った個別施策も併記した。

計画案は市ホームページのほか、区役所やまちづくりセンターなどでも閲覧できる。1月23日まで意見を受け付けている。市循環型社会推進課は「ごみ減量は『環境首都・札幌』の実現につながる。ぜひ読んでほしい」と話す。問い合わせは同課 ☎211・2912へ。

2018年1月17日朝刊札幌市内版(記事は再編集しています)

①札幌市がごみの減量の目標として「1人1日100グラム減」を掲げた理由として、最も適切なものを次のア～エから一つ選び記号で答えなさい。

- ア. これまでの実績を振り返ってみると、減らすのは1人1日100グラムが限界だから。
- イ. ごみの排出量を1人1日100グラム以上減らすと、政令市で最少になる可能性が高いから。
- ウ. 担当者が実験した結果、1人1日100グラムのごみを減らすことは比較的簡単だったから。
- エ. 「1人1日100グラム」と書くと、「1」が連続して縁起がよさそうだから。

②基本方針で重点となっている2R(排出抑制、再使用)とリサイクルの違いを、本文中から20字で書き抜きなさい。(句読点を含む)